

令和3年度学校自己評価システムシート (県立鳩ヶ谷高等学校)

目指す学校像	総合制高校として3学科の特色を生かし、生徒一人ひとりが主体的に学ぶ力を育成する学校
--------	---

重点目標	1 生徒が実感できる確かな学力の向上 2 生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導の推進 3 メリハリのある生徒指導の徹底 4 地域に開かれた学校の更なる推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	アンケート結果から生徒の授業満足度が高く、学習意欲の高い生徒が増えている。しかし、確かな学力の向上には引き続き課題が残る。生徒が実感できる学力を保障するための取り組みとして、ICT等を活用した授業改善や資格取得及び進学補習等、学びやすい学習環境を整える必要がある。また、生徒が主体的に学ぶ力を育成し、国際理解を深め、共に生き協働できる人材の育成が課題である。	生徒が実感できるような学力の向上を図るため授業改善に取り組む。	①年次研修や授業公開週間を活用し、教員間の授業研究・授業改善に取り組む。また、1・2年次週間を実施し、生徒が自ら主体的に学ぶ態度・意欲を育てる。更に、家庭学習を習慣化させる。 ②業者テスト(学びの基礎診断)や外部模試から学習状況を把握し PDCAサイクルを活用しながら、相対的に生徒の学力を伸長させる。 ③各種資格の積極的取得させる。 ④グローバル教育を推進し国際理解を深める。	①他の教員の授業参観2回以上したか。 ①授業に満足している80%以上(生徒)、80%以上(保護者)、授業に集中している85%以上(生徒)、授業改善に取り組んでいる70%以上(保護者)、考查期間、テスト前以外1時間以上家庭学習している生徒30%以上(生徒) ②外部模試のデータの蓄積・分析して指導に活用できたか。外部模試1.2年3回以上実施したか。 ③各種検定受験者数や合格者が増えたか。また、上級資格に挑戦した生徒が増えたか。 ④グローバル教育を推進する取組が増えたか。	●教員の授業改善・ICT活用により生徒の学力が向上した。 ①授業参観、一人平均3.2(1.8)回授業満足度78.8%(76.4)(生)79.4%(80)(保)授業集中度81.1%(79.1)(生)授業改善62.7%(62.9)(保) 考查期間90.3%(85.5)テスト前以外1時間以上家庭学習している生徒27.6%(23.9) ②外部模試(1年5、2年5、3年6)計16(11)回を実施し生徒の実態を把握し適切な指導に繋がった。 ③専門資格等取得表彰98(95)人。 ④バスタカサ地区、カホシヤ高校生とオンラインでの講義、総探「防災教育(ネール)」等グローバル教育を推進した。(昨年度の数字)	A	【課題】生徒の学力向上とICT機器活用やオンライン授業等、更なる教員のスキル向上が課題である。 【改善策】 ・コロナ禍によるオンライン授業、Youtube配信等、リモートによる生徒の学習保障に取り組む。 ・教員の年次研修や個々の授業力向上、教科間の教材研究、授業改善に引き続き取り組む。
2	社会は、時代の変化に対応できる人材を求めている。今後、社会の一員として授業で学んだ知識や技術を活かせる生徒の育成が必要である。更に、生徒の進路適性を把握し、就業観を育成しつつ将来を見据えた進路を実現し、保護者の進路意識の向上と総合型選抜と大学一般受験者の増加が課題である。	生徒の実態に即した進路指導を推進し進路を実現する。	①進路に対する意識向上を図り、進路決定率を増加させる。 ②進路希望別(朝、放課後、長期休業中)の補習を実施し進路を実現する。 ③進路ガイダンス、小論文指導、分野別ガイダンス等積極的に実施し進路意識を高める。 ④外部講師を活用し、教員研修や保護者の意識を啓発する。 ⑤未来の職業人材育成事業・高校生の「農力」育成強化プロジェクト・産業教育フェア等積極的に参加する。	①進路決定率100%、就職内定率100%できたか。 ①進路指導に満足している80%以上(保護者) ②進路目標に向け、積極的に補習に参加したか。 ③1.2年は進路意識が高まったか。3年は安易に進路を選ばず質の高い進路実現ができたか。 ④大学一般受験、総合型選抜受験者が増えたか。 ⑤外部講師を招いて、教員研修会の実施及び保護者への啓発ができたか。 ⑥県事業等に計画的・積極的に参加できた。	●進路指導の充実により生徒個々の進路実現が達成された。 ①就職内定率100%就職・公務員32(56)、大学100(81)、短20(22)、専門110(112)人合格(1月31日現在)、進路指導満足度73.7%(71.2)(保) ②朝・放課後及び長期休業中に進路希望別に各学年進路補習を実施した。 ③一般受験者11(5)、指定校67(61)、公募4(3)、総合型25(34)名合格 ④小論文教員研修、2年進路見学会、企業・看護インターシップ等を実施した。 ⑤キャリア教育推進事業、未来の職業人材育成9回以上/年等、川口学生CMアワードグランプリ受賞	A	【課題】進路多様校として様々な生徒への進路保証が必要である。特に大学進学率向上に伴い、一般・公募・学校推薦試験に対応した進路指導が求められている。 【改善策】 ・1年生から段階的・計画的な進路指導を取り組み、早期から生徒の進路への意識向上を図る。 ・総探時間で、企業や外部の人材を積極的に活用し、社会で信頼され活躍できる生徒を育てる。
3	継続的な生徒指導により挨拶や身だしなみ、礼儀等、基本的な生活習慣が身に付き、規範意識が向上している。しかし、遅刻者数と交通事故を減少させるための交通安全の育成は引き続き組織的な取り組みが必要である。更に、部活動の活性化と異校種との交流を進める。	生徒指導の徹底を図り、規範意識を向上させる。	①”ならぬことはならぬ”指導を継続し、基本的な生活習慣の定着を組織的に取り組む。 ①毎日の立哨指導や講演会等を活用し、遅刻防止及び交通事故防止を徹底する。 ②校内表彰制度により、学校活動において、模範となる生徒を表彰する。 ③アルバイトの許可制を適切に運用し、部活動方針に従い、部活動を活性化させる。	①登校指導、身だしなみ指導を継続し遅刻件数年間1日3人以下。 ①身だしなみや言葉遣い挨拶に取り組んでいる100%(生徒)、90%以上(保護者) ①学校生活に満足している90%以上(生徒) ②校内表彰5名以上 ③部活動加入率90%以上 ③部活動は満足している80%以上(生徒)	●指導の継続が生徒の規範意識に繋がった。 ①1日あたりの遅刻者7.1(7.4)人、年間交通事故5(7)件。登校指導・整容指導を学年ごとに計画的に実施した。身だしなみや言葉遣い挨拶評価94.7%(93.1)(生)、85.8%(87)(保)、学校生活満足度85.4%(85.1)(生)②校長表彰は、個人1、団体1(団体2)2学期まで③部活動加入率86.7(85.2)% ③部活動満足度68.7%(60.2)(生)、部活動は、コロナ禍による影響を受け、通常の練習及び試合等に活動制限があった。	B	【課題】遅刻者や交通事故の減少に更に取り組む。また、生徒の自己肯定感を高めるために部活動や学校行事等を更に活性化させる必要がある。 【改善策】 ・朝の挨拶・交通安全指導を継続し、自転車運転マナーや交通安全の意識向上に取り組む。 ・会議を精選し、教員の部活指導時間を確保する。 ・「凡事徹底」日常生活指導を更に推進する。
4	地元小中学校や地域との連携を深め、開かれた学校づくりをより充実させるためにホームページの更新と掲載内容を工夫する必要がある。また、生徒会を中心に生徒を前面に出し、自発的に発案実施できるようなリーダー層の育成が課題である。	保護者や地域の方との連携を深め、地域社会に信頼される学校づくりを進める。	①授業公開や体育祭・文化祭など学校行事等の情報をメール・HPで積極的に情報発信し保護者の参加・協力を得る。 ②生徒会活動を活性化させ、地域の行事に積極的に参加し、リーダーシップの養成を図る。また、異校種交流を進める。 ③学校説明会の内容や実施時期を検討し、参加者数を増加させる。 ④定期的にHP更新するとともにメディアに教育活動を積極的に提供する。	①授業公開・体育祭・文化祭の保護者等の来場者が増えたか ①学校からの情報発信は満足している90%以上(保護者) ②地域との交流回数が増加したか。 ②学校行事は充実している75%以上(生徒)、85%以上(保護者) ③学校説明会の中学生、保護者の参加者数の合計1,000名以上 ④HPの更新は、月20回以上、メディアへの情報提供	●教育活動の配信が、中学生・地域の信頼に繋がった。 ①オンラインスクール保護者参加54(43)名園芸卒業来場者約520(500)人②八幡木中周年式典壇上花制作(園芸)ホグミ甲子園参加(ボランティア)②学校行事充実度70.2%(64.9)(生)66.9%(76.5)(保)②生徒会中心に三送会を実施。③学校説明会の中学生、保護者の参加者数1,586名。④HP19.1回/月(18.4)更新、閲覧回数28,886(22,770)回/月、報道機関等(メディア)等の情報提供。学校からの情報発信満足度83.5%(87.8)(保)	A	【課題】地域に愛され信頼される学校づくりに継続して取り組む。また、生徒が学校行事に自発的・主体的に参加し、活躍できるリーダーの育成が課題である。 【改善策】 ・コロナ禍でできるPTA活動やボランティア活動等、地域との連携を深め、更なる広報活動の充実を図る。 ・生徒が自ら企画を発案し、自発的に学校行事に参加できる環境づくりとリーダーの育成に取り組む。 ・学校の教育活動を積極的に生徒・保護者・地域に配信する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和4年3月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>コロナ禍という厳しい環境にもかかわらず、評価項目の達成状況が改善されている。今後も様々な取組を継続してほしい。</p> <p>コロナ禍において従来の授業方法にとらわれずに、柔軟な対応をしている。今後も新しい方法を取り入れて、生徒一人ひとりの学力向上を実現してほしい。</p> <p>なお、リモートによる授業については、十分に検証して、自宅で授業を受けている生徒の参加についての工夫を継続してほしい。</p> <p>資格取得は成果としてとても分かりやすく、生徒の自信につながるのので、今後も指導していただきたい。</p> <p>多様化している生徒の進路実現に向けて、生徒一人ひとりの学力と適性を十分に把握して指導を推進していることがわかる。総合的な探究の時間での指導や補習、様々な試験対策等のきめ細やかな指導が行われている。その成果もあり、数値結果も含め、望ましい達成状況がみられる。</p> <p>一人ひとりの生徒の希望の把握やその実現に向けて、面談の充実を継続されたい。</p> <p>生徒の進路意識が高められるよう、外部の人材や組織の活用について工夫をしていただきたい。(大学の体験授業や企業の面接練習等)</p> <p>生徒の生活習慣等を把握し良好な指導を行っていると考えられる。特に身だしなみや言葉遣いの評価が94.7%と高いのは、その成果であろう。</p> <p>校則は一般常識を学ぶ第一歩にもなるので、しっかりと生徒に伝えてほしい。時代にそぐわない校則は見直し、生徒が安心できる学校生活の場を提供してほしい。</p> <p>立哨指導は、先生方には負担だと思うが、生徒や地域へのアピールになるので、明るく元気にお願いしたい。</p> <p>コロナ禍で学校行事等が制限される中、HPの活用で生徒の動きや学校の特色が分かりやすく紹介・更新されている。本校の生徒や保護者だけでなく、中学生にも十分に参考になる。</p> <p>厳しい学校・社会環境の中、特別活動についての効果的な取組を見いだせない悔しさが読み取れる。この状況は今後も続くと思定されるため、スクラップ&ビルドでスリム化・焦点化を図られたい。</p> <p>卒業作品展の案内等のPRをもっと行ったらよいのではないかと。</p>	